浪江町

なみえ復興レポート

令和8年10月

福島県浪江町

Namie Town
70th Anniversary

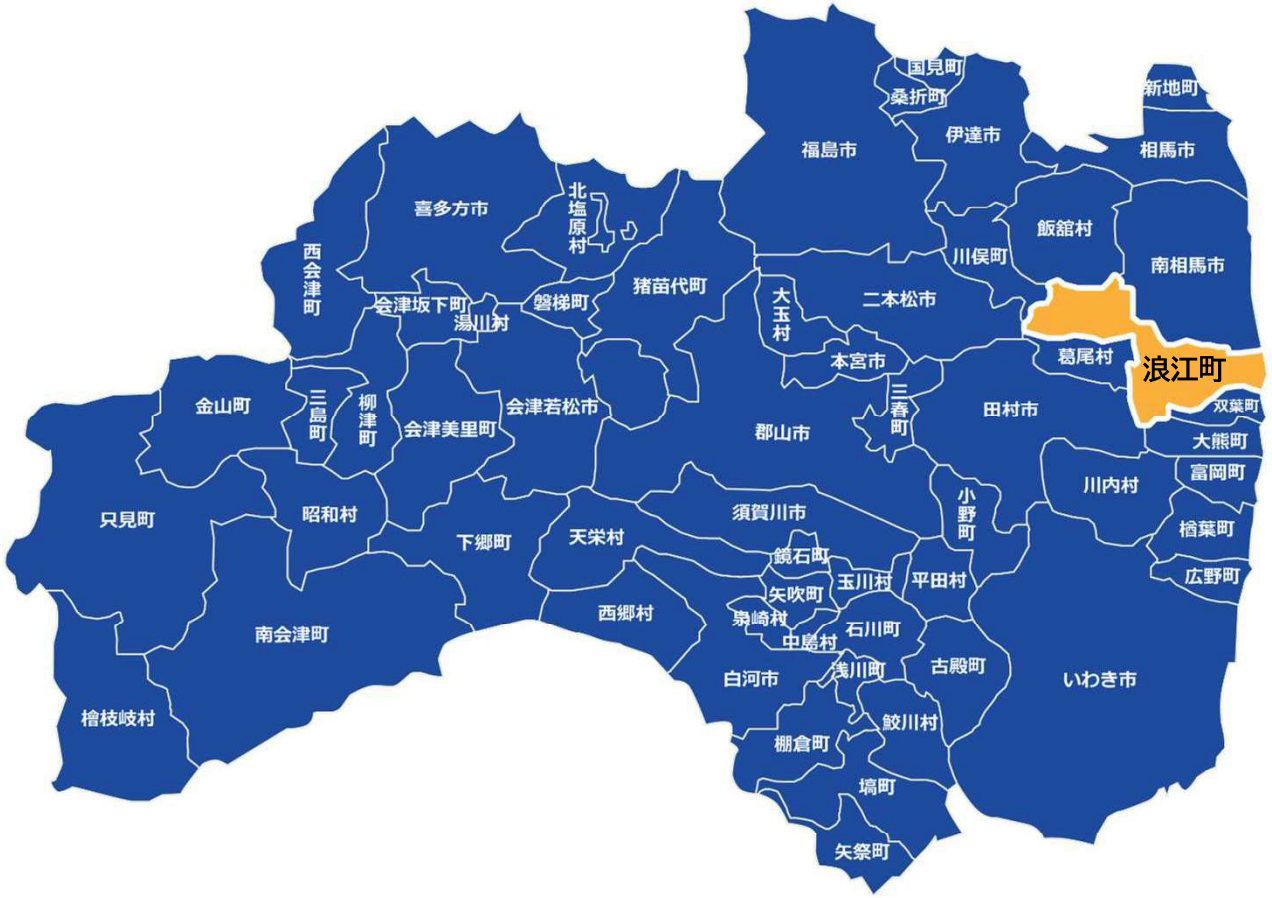


ふるさと「浪江町」



海と山と川に囲まれ、自然に恵まれたまち
歴史と伝統を大切にするまち
資源を生かした、にぎわいのあるまち

震災時人口	21,542人
世帯数	7,671世帯
面積	223.06㎢



東日本大震災の被害






震度6強の揺れ
15メートルを超える津波

- 6㎢が浸水
- 全壊家屋651戸
  （流失586戸、地震65戸）
- 約1,000事業所が被災
- 死者182人
  うち行方不明31人
  家屋倒壊による圧死は1人

福島第一原子力発電所の事故



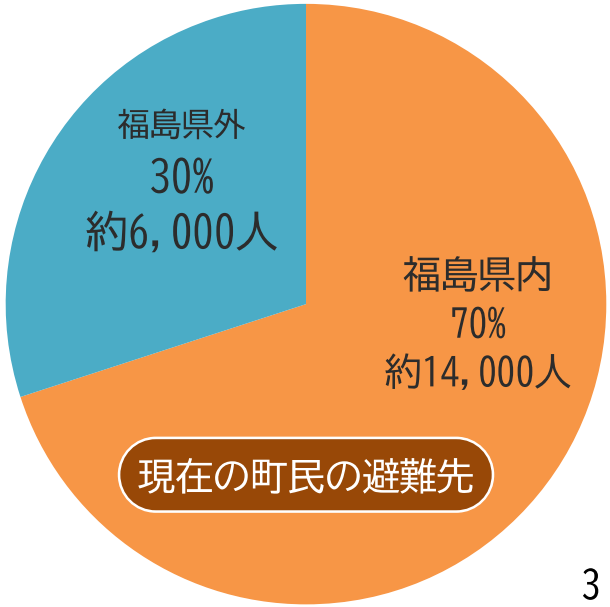




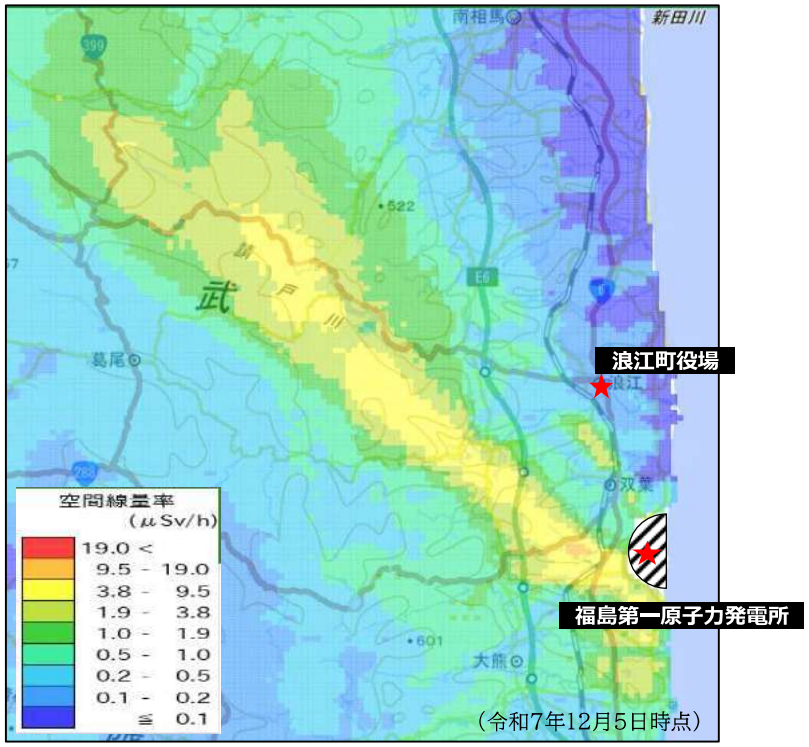
半径20km圏内に避難指示
20ｋｍ～30kmに屋内退避指示

- ▶町全域21,000人を超える町民が避難対象に
- ▶避難先を転々、役場機能も1年半で4回移動
- ▶長引く避難生活による震災関連死445人

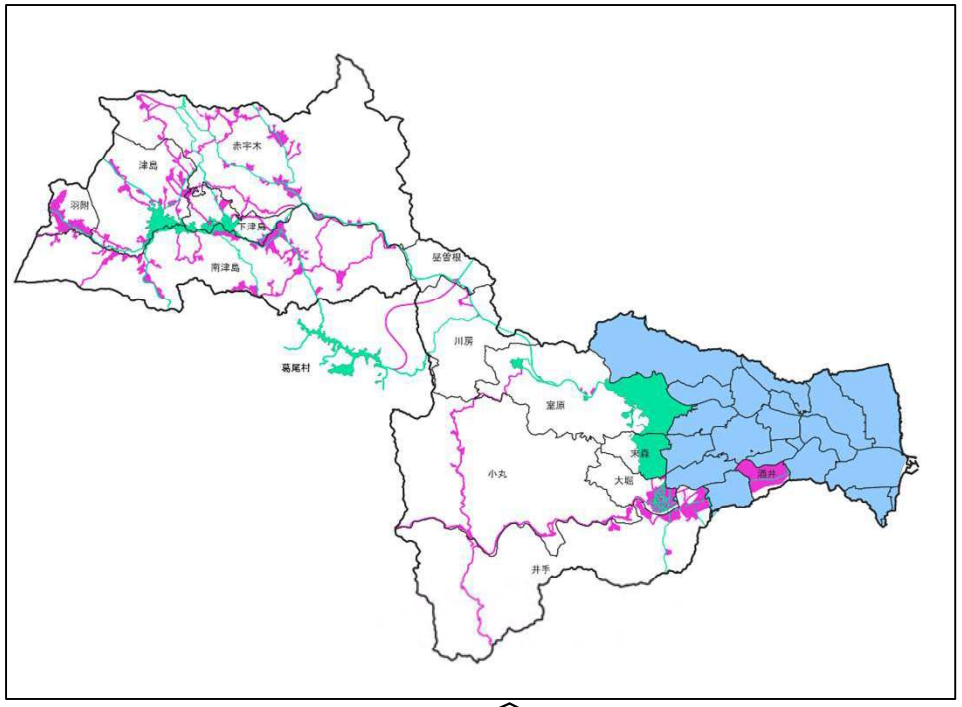
（令和7年7月末）



空間放射線量の分布と区域指定



出典:「放射性物質モニタリングデータの情報公開サイト」
https://radioactivity.nra.go.jp/emdb/



（平成29年3月31日～）

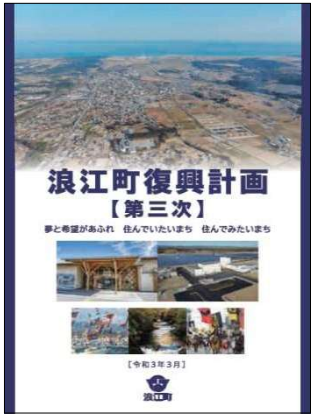
- **旧避難指示解除準備区域・旧居住制限区域**：平成29年3月31日　避難指示解除
- **特定復興再生拠点区域**：令和5年3月31日　避難指示解除
- **特定帰還居住区域**：令和6年1月16日、令和7年3月18日　認定
- **帰還困難区域**：避難指示が継続

浪江町復興計画

（平成24年10月策定）	（平成29年3月策定）	（令和3年3月策定）
【第一次】	【第二次】	【第三次】







浪江町復興まちづくり計画
（平成26年3月）

まち・ひと・しごと創生
浪江町総合戦略
（平成28年3月）

避難指示解除に関する
有識者検証委員会報告書
（平成28年3月）

浪江町中心市街地再生計画
（平成29年3月）

浪江町特定復興再生
拠点区域復興再生計画
（平成29年12月）

まち・ひと・しごと創生
浪江町総合戦略【第2期】
（令和2年3月）

○計画の構成

ア　基本構想
「復興の理念」と、これを達成しうるための
基本方針計画期間：令和3年～令和12年

イ　基本計画
基本構想を実現するための施策を定めるもの
計画期間　令和3年～令和7年（前期）
　　令和8年～令和12年（後期）

○進行管理
ＰＤＣＡサイクルによる効果的な進行管理を行い、評価の結果を踏まえながら改善を行い、計画の着実な実行に繋げます。

復興の理念・基本方針

《復興の理念》

夢と希望があふれ
住んでいたいまち　住んでみたいまち
～なかよく　みんな　えがおの　花咲くまち　なみえ～

《復興の基本方針》

Ⅰ　夢と希望のある産業と仕事づくり

Ⅱ　未来を担う人づくり

Ⅲ　帰還困難区域の再生と住みよい環境づくり

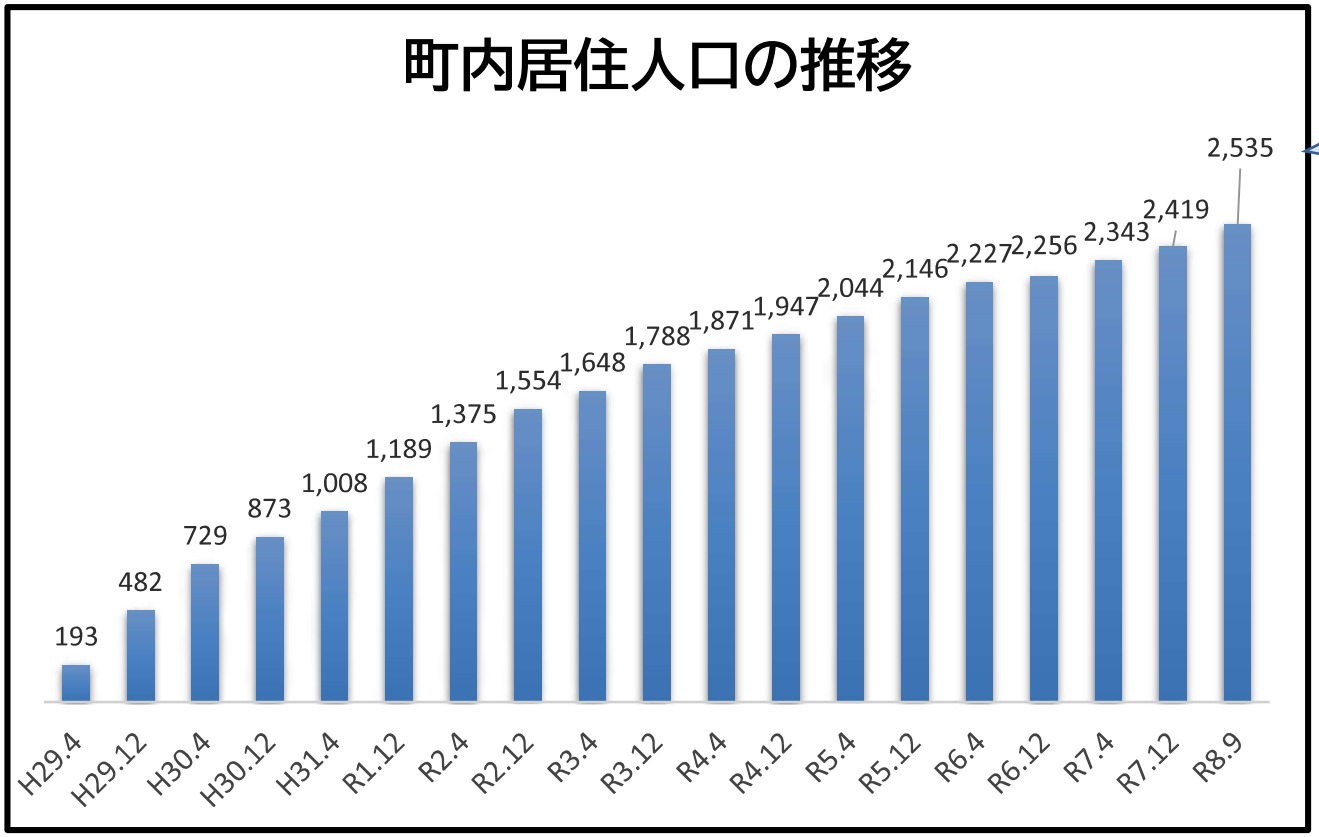
Ⅳ　健康と福祉のまちづくり

Ⅴ　絆の維持と持続可能なまちづくり

復興の歩みと復興の姿

平成29年3月31日避難指示を解除
（帰還困難区域を除く）

「復興のはじまり」



居住人口：2,535人
居住世帯：1,650世帯

浴江町民の数

男	6,860人
女	6,908人
計	13,768人
	6,448世帯

（人口は令和8年9月末時点）

復興の歩み（Ⅰ）農林水産業の再興






町内で栽培された野菜・水稲・花木

農業　100を超える生産者･団体が活動中

野菜

・町内で収穫した野菜が道の駅なみえなどで販売。
・タマネギ「浜の輝(かがやき)」や、えごま、いちじく、いちごの栽培開始。
・令和3年4月からは長ネギの栽培も行われている。

水稲

・平成26年　試験栽培を開始
・平成27年　販売開始（全量全袋検査で全て基準値以下）
・令和3年9～10月　苅野地区・棚塩地区に米の乾燥や貯蔵などができる「カントリーエレベーター(乾燥調製貯蔵施設)」を整備。
・令和5年1月、苅野地区に育苗施設を整備。
・令和6年　津島地区で試験栽培を開始

花き

・平成26年から試験栽培を開始。トルコギキョウやストック、カラーなどの花を栽培し、町内外に出荷。

新しい農業の展開

・地域おこし協力隊などによる新規就農の推進、農業の担い手の確保。
・農業の法人化、農業法人の誘致。
・共同利用施設（カントリーエレベーター、育苗施設、大規模畜産施設）整備の農業再生基盤の再生と強化
・新しい技術の活用による農作業の省力化、農作物の品質向上。
・令和6年4月、津島を「リンゴの里」とする実証栽培がスタート。今後、50haまで面積を拡大し、年間3千tの生産を予定

復興の歩み（Ⅰ）農林水産業の再興

農業再生基盤の再生と強化





・米の乾燥調製、 苗の供給

・もみ殻の供給

・飼料米の生産、供給

・農地の地力回復を堆肥や
液肥供給により支援



・出資により
経営に関与

・素牛や混合
飼料の供給など

耕種農家

畜産農家

作付拡大による農業
産出額の増加に寄与

『耕畜連携』の創出による
産業コミュニティの再生に寄与

酪農再開による農業
産出額の増加に寄与

復興の歩み（Ⅰ）農林水産業の再興


福島高度集成材製造センター


請戸漁港


請戸魚市の再開
（令和4年12）

林業・漁業　福島高度集成材製造センター（通称：FLAM）、港湾設備、水産業共同利用施設などが完成

林業の再建

・森林の持つ公益的機能を継続的に発揮させるため、森林整備や放射性物質対策等の継続した取組
・ＣＬＴ（直交集成板）などの新技術の導入
・令和3年11月に福島高度集成材製造センターを整備

漁業の再建

・安全で高品質な「請戸もの」ブランドを全国に発信
・さけ漁や遊漁の再建支援（放射線物質に関するモニタリング調査の継続、やな場、ふ化場の整備）
・平成25年からあゆ稚魚の放流、そのほかヤマメやイワナ稚魚の放流を実施（室原川高瀬川漁業協同組合）
・平成30年と令和4年に鮭稚魚の放流（泉田川漁業協同組合）
・令和7年に小野田地内に新たなさけふ化施設を建設。
やな場は令和8年度完成に向け整備中。

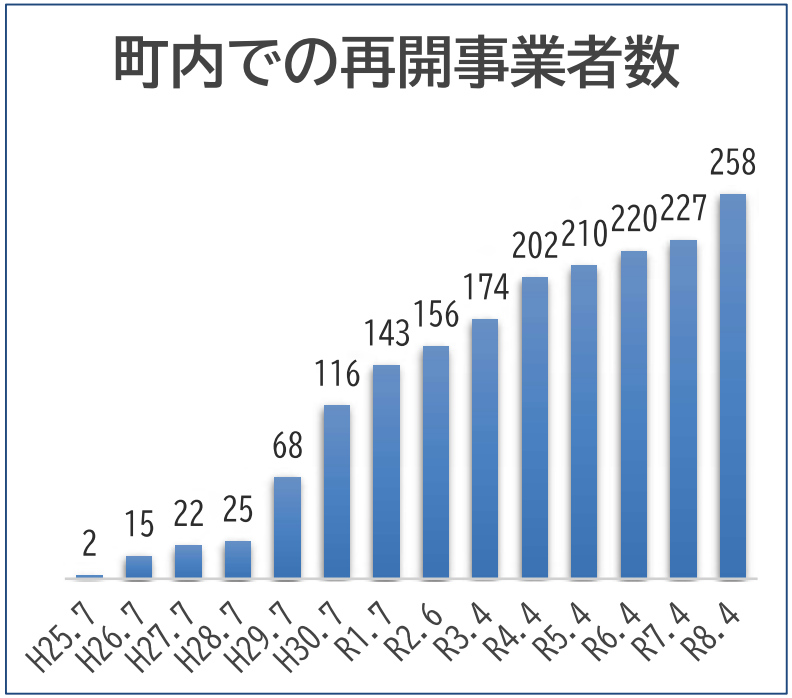
請戸漁港

・平成29年　漁船が帰還
・平成30年　海上の安全と豊漁を祈願する出初式が復活
・令和2年4月　競りが再開し、首都圏を中心に「請戸もの」の流通が再開し、ヒラメ、カレイ、シラス、シラウオ、スズキ、メバルなどが水揚げされる。
・水産加工団地では水揚げされた魚の加工事業も再開され、町内の店舗やイベント会場で販売が行われている。
・令和3年11月　請戸漁港が竣工
・令和4年12月　震災後初の「請戸魚市」の再開


請戸漁港から
出航する漁船

復興の歩み（Ⅰ）新たな産業と雇用の創出

町内での再開事業者数



町内に店舗・施設がオープン

●令和元年7月　イオン浪江店オープン
●令和3年3月　道の駅なみえグランドオープン
●令和3年8月　いこいの村なみえグランドオープン

産業団地に立地した企業

●浪江町北産業団地
・株式会社バイオマスレジン福島
・かもめミライ水産株式会社

●浪江町藤橋産業団地
・フォーアールエナジー株式会社
・静光産業株式会社
・株式会社一路
・富士コンピュータ株式会社
・BSホールディングス株式会社
・株式会社REBGLO

●浪江町南産業団地
・會澤高圧コンクリート株式会社
・八島運送株式会社
・株式会社ダイイチ
・株式会社トッキュウ
・三協フロンテア株式会社

●浪江町棚塩産業団地
・福島水素エネルギー研究フィールド
・福島高度集成材製造センター
・福島ロボットテストフィールド
・ふくしまハイドロサプライ株式会社
・日揮ホールディングス株式会社

連携協定締結

- 株式会社良品計画
- 福島県酪農業協同組合および全国酪農業協同組合連合会
- 丸紅株式会社、株式会社日立製作所、パナソニック株式会社、みやぎ生活協同組合福島支部
- 隈研吾建築都市設計事務所、伊東順二事務所、住友商事株式会社
- 双葉町・南相馬市・日産自動車・フォーアールエナジー・福島日産自動車・日産プリンス福島販売・イオン東北・日本郵便・長大・ゼンリン
- 三井住友海上火災保険株式会社
- 弘前大、福島大、東京大、新潟大、東京工業大、東北大、東京農業大、福島学院大
- よい仕事おこしフェア実行委員会
- 東武トップツアーズ株式会社

基本協定締結

- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
- 上記、産業団地に立地した企業各位

復興の歩み（Ⅱ）子育て環境・学校教育の充実





震災時 町内6つの小学校と3つの中学校に約1,700人が在籍

震災後 浪江にじいろこども園に68人、なみえ創成小学校に61人、なみえ創成中学校に26人が在籍（令和8年3月現在）
避難先の全国290の小中学校に632人が在籍（令和8年3月現在）

◆町立学校のあゆみ



- 平成23年8月　浪江小学校、浪江中学校が二本松市内で再開
- 平成26年4月　津島小学校が二本松市内で再開
- 平成30年4月　なみえ創成小学校・中学校開校、浪江にじいろこども園開園
- 平成31年4月　幾世橋・請戸・大堀・苅野小学校、浪江・浪江東・津島中学校合同休校式を実施
- 令和2年7月　閉校・解体となる浪江・幾世橋・大堀・苅野小学校、浪江中学校の学校見学会を実施
- 令和3年3月　津島小・中学校、なみえ創成小・中学校を除くすべての町立小・中学校が閉校
- 令和3年6月　津島小・中学校が閉校
- 令和4年4月　浪江にじいろこども園の園舎増築により定員を30人から90人へ変更
- 令和4年9月　町立学校閉校式及び閉校のつどいを開催
- 令和4年11月　津島小・中学校の学校見学会を実施





復興の歩み（Ⅱ）生涯学習環境の充実



ふれあいセンターなみえ　町民が交流できる場として整備

ふれあいグラウンド

　野球やサッカーなどの屋外競技に対応したグラウンド（夜間照明完備）です。

　※外周はランニングコース



ふれあいげんきパーク

　乳幼児から小学生までが遊べる遊具や、小学生以上が利用できるボルダリングコーナーなどがあります。



ふれあい交流センター

　会議室、和室、調理室、図書館などがあります。



ふれあい福祉センター

　デイサービスや、福祉・介護に関する相談ができます。



復興の歩み（Ⅱ）震災の記憶の伝承


震災遺構浪江町立請戸小学校

・平成29年3月

東日本大震災直後の町の初動体制から復旧・復興の取組を記録した「浪江町震災記録誌」を作成



・平成30年7月

国が策定した「福島県における復興祈念公園基本構想（平成29年2月）」に基づき、「福島県復興祈念公園基本計画」が策定（浪江町と双葉町にまたがるエリアに設置）

・平成31年2月

浪江町震災遺構検討委員会からの提言を受け、請戸小学校を震災遺構として保存・活用する方針が決定

・令和3年6月

東日本大震災から今日に至るまでの復興の様子を記録した「浪江町震災・復興記録誌」を発行



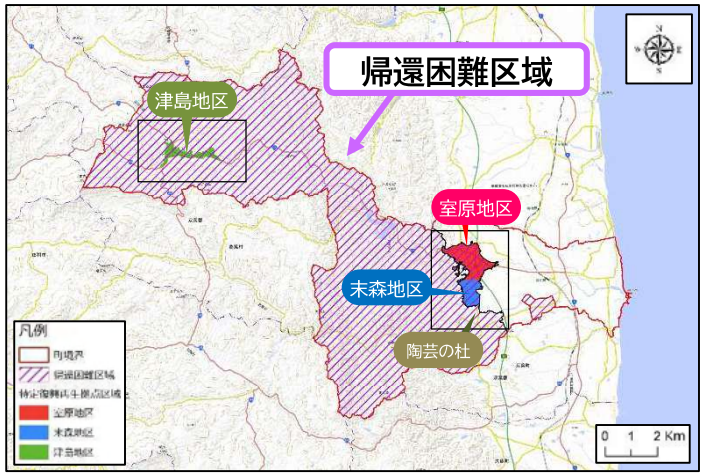
・令和3年10月

震災遺構浪江町立請戸小学校が開館

・令和4年3月

旧請戸共同墓地を整備した「先人の丘」が完成

復興の歩み（Ⅲ）帰還困難区域の再生



令和5年3月31日「特定復興再生拠点」の避難指示が解除

平成29年に特定復興再生拠点区域復興再生計画が認定され、除染と生活に必要なインフラ整備を進めました。

令和5年1月～2月にかけて「住民説明会」を開催し、国・県・町で協議後、特定復興再生拠点区域（約661ha）の避難指示が解除されました。

- 津島地区（約153ha）
- 室原地区（約349ha）
- 末森地区（約159ha）
- 文化的な価値のある施設（陶芸の杜おおぼり、大堀相馬焼の里の保全など）

津島地区の賑わいづくり

春は「つしま桜まつり」、秋には「さあ!行くべ津島肉祭り」などの食や交流をテーマにしたイベントを開催し、津島地区の賑わいづくりが進んでおり、季節ごとの自然や食を楽しむイベントが展開されています。


津島肉祭り

文化的な価値のある施設

令和5年6月3日、特定復興再生拠点区域に指定されていた大堀相馬焼物産会館（通称陶芸の杜おおぼり）が、12年ぶりに再開。再開に合わせ、開催された「大せとまつり」では、およそ3,000人が来訪しました。

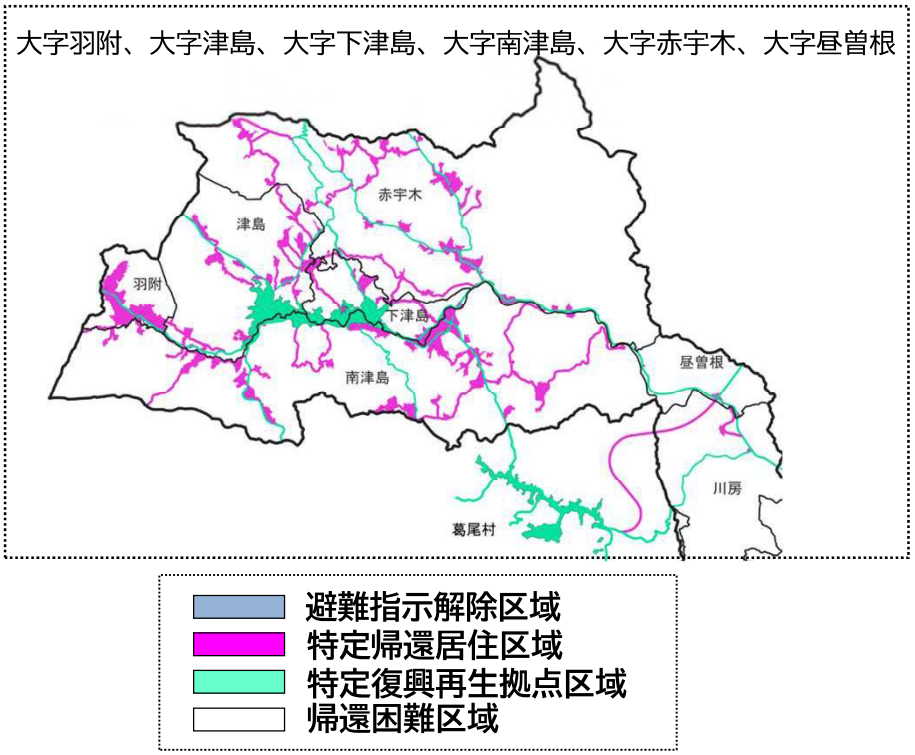
また、令和6年5月3日、14年ぶりに「登り窯まつり」が開催されました。

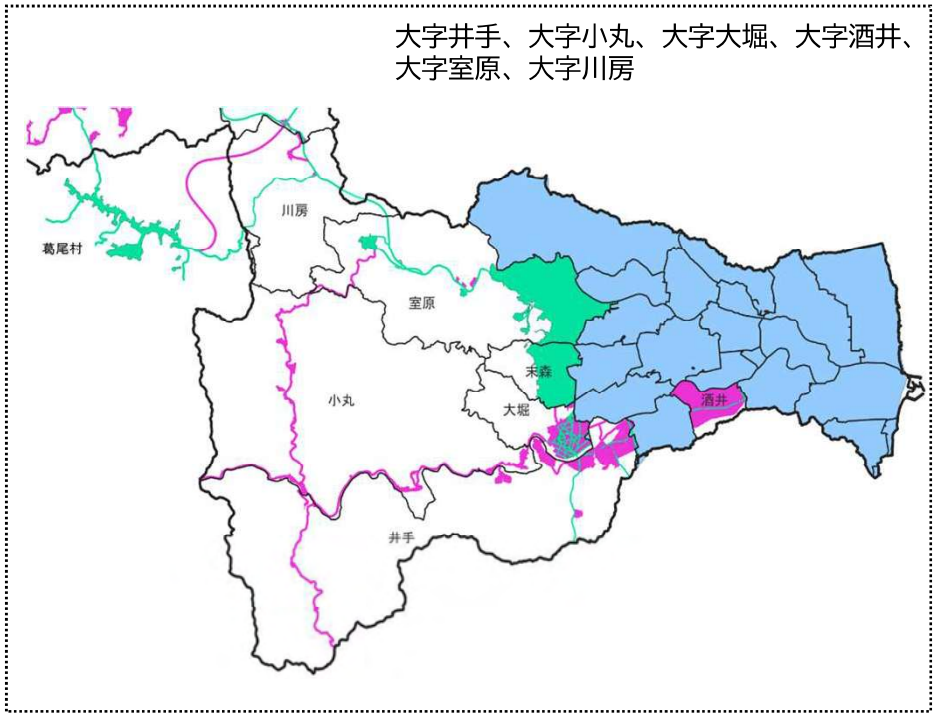

大せとまつりの様子



登り窯まつりの様子

復興の歩み（Ⅲ）帰還困難区域の再生





「特定帰還居住区域」の避難指示解除に向けた動き

令和5年6月に福島復興再生特別措置法が改正され、特定復興再生拠点区域外において、避難指示を解除し、住民の帰還・居住を可能とする「特定帰還居住区域」を設定できる制度が創設されました。これを受け、町では帰還困難区域に住んでいた方より回答をいただいた帰還意向調査の結果と住民の皆さまとの意見交換の結果も踏まえ「特定帰還居住区域復興再生計画」を国に申請し、令和6年1月に計画が認定されました。また、令和7年3月には約230ヘクタールを新たに特定帰還居住区域に追加する変更申請を国に提出し、計画の認定を受けています。（特定帰還居住区域面積：約942ヘクタール）

特定帰還居住区域は令和6年6月から環境省による除染工事も開始していますが、引き続き、国、県とも連携しながら早期に帰還困難区域にお住まいだった皆さまが安心・安全に帰還いただける環境整備を進めていきます。

復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備



主な公共交通機関

・令和3年4月1日
路線バス　運行開始
町役場、JR浪江駅、道の駅なみえなどの町内の主要施設を結ぶ

・令和3年4月14日
レンタカーサービス　開始
町民や電車を利用して町を訪れた人の交通手段として期待
※カーシェアリングは終了



主要道路

・平成27年3月1日
常磐自動車道　開通
（常磐富岡IC～浪江IC間）
常磐自動車道　全線開通



鉄道（JR常磐線）

・平成29年5月1日
JR常磐線　運転再開
（浪江駅～仙台駅間）

・令和2年3月14日
JR常磐線　運転再開
（富岡駅～浪江駅間）
JR常磐線　全線開通

復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備



なみえスマートモビリティ乗車の様子



デジタルサイネージ
（電子看板）を
利用した乗車予約



タブレットを活用したミニデジタル停留所

◆ 最先端技術の活用

- 情報通信技術などを活用した「人を運ぶ」「荷物を運ぶ」などの新しい移動サービスの実現を目指す取組が開始（なみえスマートモビリティ）
- 令和3年2月　町内でモビリティサービスの実証実験を実施
- 令和4年6月　通年での実証運行を開始

町民の生活環境の向上、町を訪れる人の利便性を高め
町全体の活性化を促進

復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備



中心市街地の再生

令和9年度末完成目標　※浪江駅東西自由通路・橋上駅舎、駅前広場は令和12年度完成目標

「なみえルーフ」が生み出す、人のつながり

・駅から商業施設まで、ひと続きにつながるアップダウンのあるダイナミックな大屋根が町ににぎわいを生み出します。これまで住んでいた方も、そしてこれから住んでみたい方も、大屋根「なみえルーフ」に集まり、人と人のつながりをつくります。
・開いた円形状の屋根は、求心力と発信力を併せ持つ、シンボリックなデザインです。

木材や再生可能エネルギーを活かした環境モデル

・木材や水素、再生可能エネルギーを環境と調和させ、浪江町に根差したライフスタイルとして世界に発信できる、未来のまちづくりを進めていきます。

浪江ならではの自然の特徴や素材の活用

・駅前から新町通りまで連続する緑空間に、山と海の両方の良さを持つ浪江町の特徴を生かします。

復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備

福島国際研究教育機構　F-REI

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation

F-REI（エフレイ）とは

- ◆ 福島国際研究教育機構（略称：F-REI）は、福島復興再生特別措置法に基づく特別の法人として国が設立する研究教育機関です。
- ◆ 理事長のリーダーシップの下で、F-REIの持つ研究開発・産業化・人材育成・司令塔の4つの機能を発揮するための取組を一体的に推進します。

研究開発
- 福島での研究開発に優位性がある下記5分野で、被災地や世界の課題解決に資する国内外に誇れる研究開発を推進

産業化
- 産学連携体制の構築
- 実証フィールドの積極的な活用
- 戦略的な知的財産マネジメント

人材育成
- 大学院生等
- 地域の未来を担う若者世代
- 企業の専門人材等

司令塔
- 既存施設等に横串を刺す協議会
- 研究の加速や総合調整のため、一部既存施設・既存予算を機構へ統合・集約

主な研究内容

ロボット
廃炉作業の着実な推進を支え、災害現場等の過酷環境下や人手不足の産業現場等でも対応が可能となるよう、ロボット等の研究開発を行います。

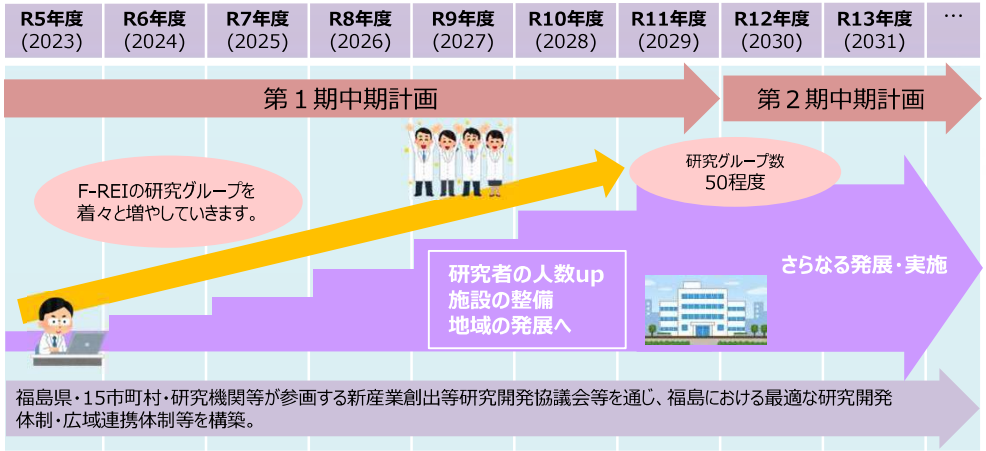
農林水産業
スマート農業やカーボンニュートラル等を通じた地域循環型経済モデルの構築を目指し、超省力・低コストな持続性の高い農林水産業に向けた実証研究等を行います。

エネルギー
福島を世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地とするため、水素エネルギーネットワークの構築や、ネガティブエミッション技術の研究開発等を進めます。

放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用
オールジャパンの研究推進体制の構築と放射線科学に関する基礎基盤研究やRIの先端的な医療利用・創薬技術開発及び超大型X線CT装置等を中心とした技術開発による放射線の産業利用を実現します。

原子力災害に関するデータや知見の集積・発信
自然科学と社会科学の研究成果等の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、更には風評払拭等にも貢献します。
また、F-REIを核とした復興まちづくりの効果検証研究を実施し、活力ある地域づくりにつなげます。

F-REIロードマップ（イメージ）



アクセス・お問い合わせ先



福島国際研究教育機構（F-REI）
住所：浪江町大字権現堂字矢沢町6番地1
TEL：0240-41-9970（代表）
✉：madoguchi.h5x@f-rei.go.jp

浪江町役場市街地整備課F-REI立地室
TEL：0240-23-6927（直通）
✉：namie23030@town.namie.lg.jp

F-REIウェブサイト

浪江町市街地整備課ウェブサイト

復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備

浪江国際研究学園都市形成に向けた取組

Namie Global Campus Town Plan

F-REIの本町への立地に伴う状況変化に対応するため、令和6年3月に「浪江国際研究学園都市構想」を策定しました。今後、町の最上位計画である浪江町復興計画【第三次】等を踏まえながら、本構想に基づきキャンパスタウン形成等のまちづくりを進めます。

計画期間：令和6年度～令和15年度（10年間）
対象範囲：浪江国際研究学園都市の範囲は浪江町全域とします

浪江町ホームページ
浪江国際研究学園都市構想

≪本構想のビジョン≫

地域とF-REIをはじめとした多様な主体※が共生する持続可能な まちづくりの実現

※本構想では、地域の住民や事業者、復興に関わる団体、様々な研究機関など、当町に関わる個人、法人、団体を広く「多様な主体」と記載することします。

【まちづくり】

目標１
誰もが過ごしやすい まちづくり

【産業づくり】

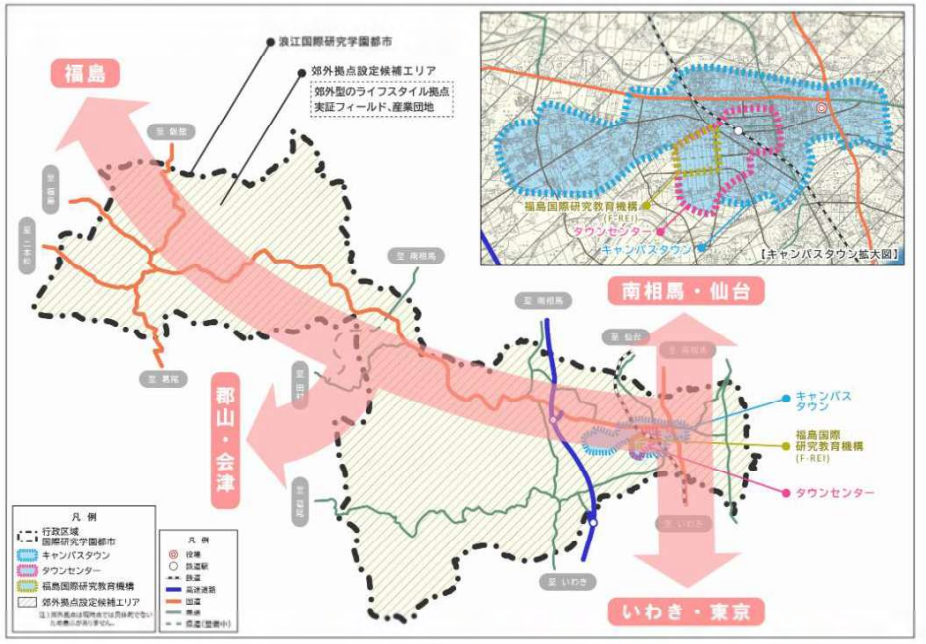
目標２
浜通り・福島県の全体最適視点による産業振興・雇用創出

【つながりづくり】

目標３
国際的な研究環境で活躍する人材などの育成・確保

目標４
伝統文化の承継と新たな浪江文化の創出

浪江国際研究学園都市形成 イメージ



復興の歩み（Ⅲ）社会基盤の維持・整備

浪江駅西側地区整備の推進

浪江駅西側地区は、エフレイを中心とした研究学園都市のタウンセンターとして新たな役割を果たす拠点です。町民、研究者等が新たな交流を通じて一体となって町の未来を「共創」し、民間資本や民間のノウハウなどを活用した公民連携の視点を併せ持ちながら、持続可能な発展を実現するまちづくりを行います。

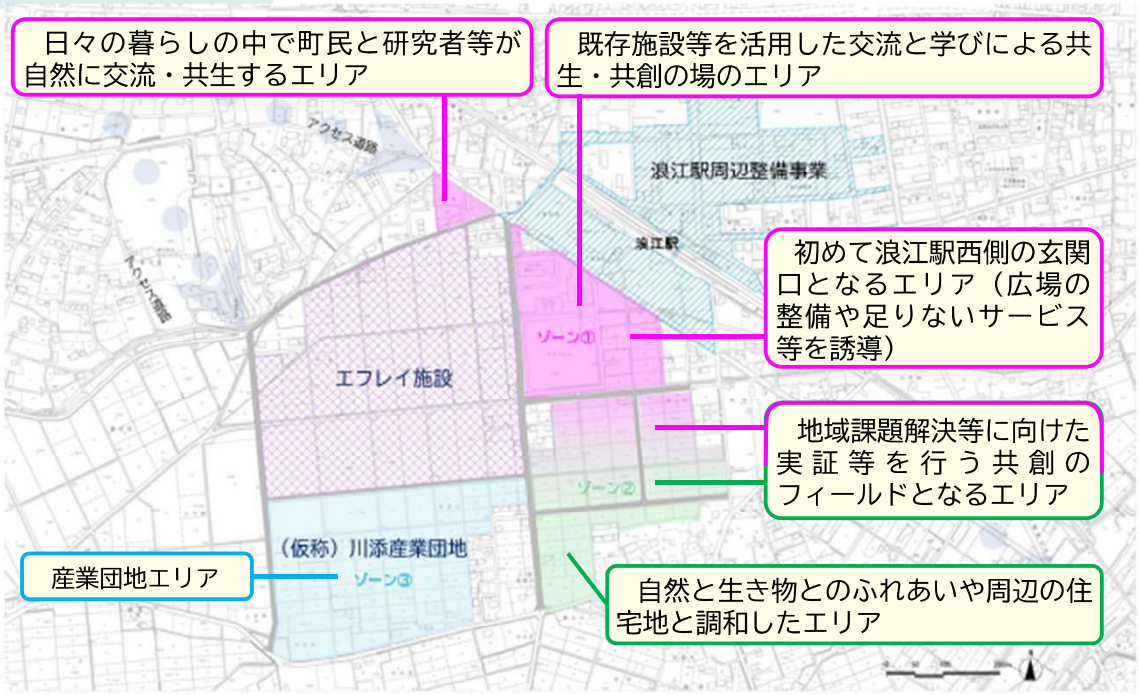
浪江駅西側地区
整備計画

基本方針（個別方針）

相互交流　生活環境　イノベーション　交通基盤　環境保全

整備イメージ

※今後、変更となる場合があります

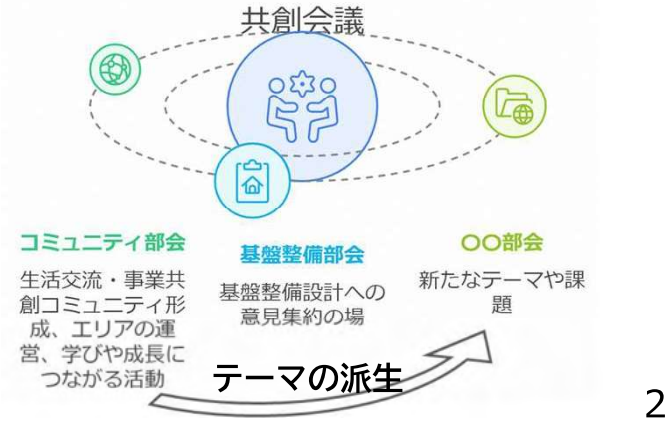


参画者募集中！

浪江駅西側地区共創会議

町民や町内外の事業者等が参画する浪江駅西側地区共創会議を令和7年度から開催します。地域課題解決、当該地区の段階的な成長、持続可能な発展に向けて話し合いを行います。

浪江駅西側地区
共創会議



復興の歩み（Ⅲ）防災・安全の強化


浪江町防災交流センター


防災コミュニティセンター

防災交流センター ・ 防災コミュニティセンター

平常時は町民の交流の場として、災害時には避難所としての機能を有した施設となっています。

施設名	住　所	場　所	備　考
浪江町防災交流センター	室原字八龍内22番地１	常磐自動車道浪江IC隣	会議室5室、集会室5室
浪江防災コミュニティセンター	川添字南大坂28番地	旧浪江中学校敷地内	集会室2室
大堀防災コミュニティセンター	小野田字下原1番地	大堀総合グラウンド敷地内	集会室2室
苅野防災コミュニティセンター	苅宿字鹿畑16番地	旧苅野小学校敷地内	集会室2室
幾世橋防災コミュニティセンター	北幾世橋字植畑11番地	旧幾世橋小学校敷地内	集会室2室



【防犯対策など】

- 町有害鳥獣捕獲隊活動
- 警察及び消防24時間体制常駐
- 主要道などへの防犯カメラ設置
- 町消防団　町内パトロール
- 町防犯見守り隊　町内パトロール
- 警備会社　町内パトロール

復興の歩み（Ⅲ）ゼロカーボンシティの推進



福島水素エネルギー研究フィールド
（令和2年3月開所）



水素燃料電池自動車の公用車
（令和3年3月）



水素燃料電池自動車の
スクールバス（令和5年4月）

◆ 原子力に依存しない、エネルギー地産地消のまちづくり

- 再生可能エネルギーを活用、少ない電力を効率的に利用する「スマートコミュニティ」の推進
- 令和2年3月に、国が推進する〝2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ〟を目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言
- 浪江町地球温暖化対策総合計画～なみえエネルギーチャレンジ2035～を策定し、2035年を待たずにゼロカーボンシティを実現することを目指す
- 「道の駅なみえ」、「いこいの村なみえ」「ふれあいセンターなみえ」に水素で発電した電力や発電時に生じた余熱を利用した温水を供給する設備を設置
- 公用車として、電気自動車(EV)や水素で走る燃料電池自動車(FCV)を導入するとともに、スクールバスのFCV化や、イオン東北と連携したFCVによる移動販売事業も展開
- 移動式水素ステーション「ナミエナジー」、定置式水素ステーション「浪江水素ステーション」が開所
- 2023年、水素の利活用に関わる知見や取組みを共有するため、米カリフォルニア州ランカスター市およびハワイ郡の二都市と「太平洋水素エネルギー共同体（パシフィック・ハイドロジェン・アライアンス：通称PHA）」を表明
- 2026年1月、再生可能エネルギー等の地産地消を目標とする新エネルギー会社「なみえミライエナジー」を設立

PACIFIC HYDROGEN ALLIANCE

復興の歩み（Ⅳ）健康づくりの推進・医療の充実



主な施策

- **医療機関などとの連携、協力**
- **巡回訪問（孤立防止、外出支援、心のケア）の実施**
- **放射線基礎セミナー、講習会の開催**

・平成23年 9月　仮設津島診療所を二本松市内の　仮設住宅内に開所
・平成24年 4月　町独自にホールボディカウンターを導入、内部被ばく検査を開始
・平成24年 7月　全町民に「放射線健康管理手帳」を交付
・平成24年以降　甲状腺検査を開始（福島県が実施しない年に実施）
・平成25年 5月　役場本庁舎内に仮設診療所を開設
・平成29年 3月　浪江診療所を町内に新築、仮設津島診療所を二本松市内の復興公営住宅敷地内に移設し、開所
・平成30年 8月　町内で民間の医療機関（歯科）が診療を再開
・令和 5年 8月　浪江診療所で訪問診療を開始
・令和 5年 9月　浪江診療所で小児科を開設
・令和 5年10月　町内で民間の調剤薬局が開業
・令和 6年 2月　町内に居住している子どもを対象とした小児科のオンライン診療を開始

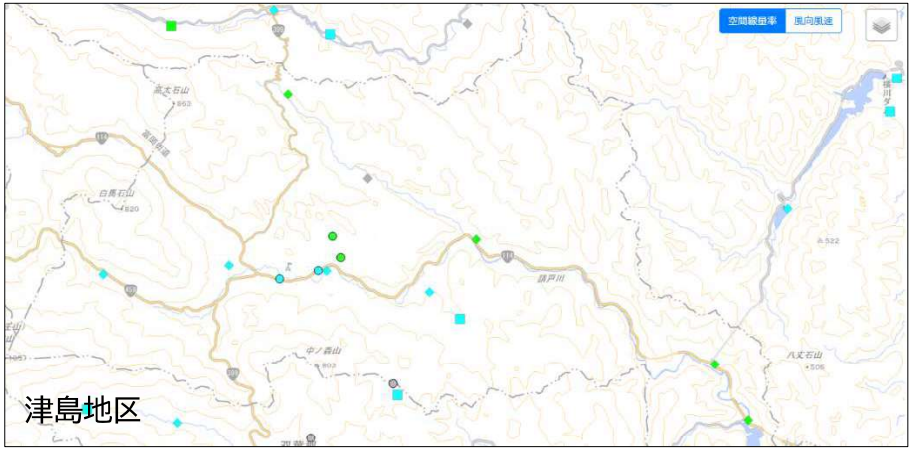
復興の歩み（Ⅳ）放射線による健康不安への対策

◆ 除染・災害廃棄物の処理

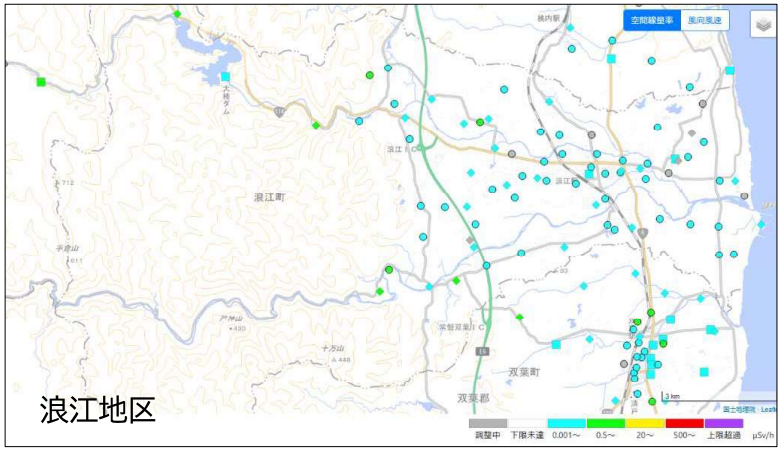
・平成24年11月　環境省が除染実施計画策定
・平成25年 8月　帰還困難区域モデル除染開始
　　10月　本格除染開始
・平成29年 9月　フォローアップ除染の実施
　　10月　津波被災地を除く避難指示解除準備区域、居住制限区域での除染完了
・平成30年 5月　「特定復興再生拠点」整備に向けた除染開始
・令和 6年 6月　「特定帰還居住区域」整備に向けた除染開始

◆ 放射線モニタリング

・ 町内91か所にモニタリングポスト設置（これ以外に34地点で測定）
・ 取水場3か所に24時間水道水モニタリング装置を設置



津島地区



浪江地区

出典:「放射線モニタリング情報共有・公表システム」https://www.erms.nsr.go.jp/nra-ramis-webg/

復興の歩み（Ⅴ）被災者生活支援・絆の維持

◆交流館の設置、復興支援員の配置

- 県内3か所（いわき・福島・郡山）に交流館を設置
- 生活再建を支援するため復興支援員(県内7人)を配置
  (令和8年3月現在)

◆町オリジナルのウェブサービスを利用した「きずなの維持」

- 町民の声をもとに「なみえ新聞」を開発し、町の話題の発信を行う
- 町民がお気に入りの写真を投稿できる機能を開設
- 令和5年4月にはアプリからウェブ版へ移行



◆ 「浪江のこころ通信」（町民へのインタビュー連載）

- 福島県内外に分散避難した町民の思いをつなげる
- 「広報なみえ」にとじ込み、延べ約450人の家族などが登場
- 平成26年と平成29年、令和4年に総集編を発行・配布





◆浪江町イメージアップキャラクター「うけどん」

- 平成30年10月、タブレットで町の話題を発信していた「うけどん」が浪江町イメージアップキャラクターに就任
- 町の魅力や情報を町内外でPRするために活躍中



浪江町イメージアップ
キャラクターうけどん

復興の歩み（Ⅴ）移住・定住の推進

◆ **町民の帰還支援**

- 町内の個人住宅の再建などの支援、支援・相談体制の整備、ふるさと情報の発信

◆ **移住・定住の推進、住みやすい住環境の整備**

- 移住・定住の相談窓口の強化、家賃補助や住宅取得補助など各種支援制度の充実
- 新たな移住・定住支援施策（長期お試し宿泊や企業の案内など）の取組の実施
- 暮らしの情報や支援施策など、町の魅力を国内外に発信
- 空き家の適正な管理と流通・利活用の推進

◆ **「なみえプロモーション課」**（地域おこし協力隊メンバーが所属）

- 町が抱える課題を外部の目線で解決に向けて取組むとともに、SNSなどを活用した情報発信、まちのにぎわいづくりなどを通じて”なみえらしさ“を「見つける・創る・広める」活動を行う

◆ **ナミエシンカ**

- 復興意欲の高い人材の呼び込みに向けて、令和4年10月にコワーキングスペースを整備するとともに、起業支援を実施





ナミエシンカ
（コワーキングスペース）

復興の歩み（Ⅴ）移住・定住の推進

災害公営住宅



被災町民向け災害公営住宅として整備（全111戸）

◆幾世橋住宅団地　85戸
　第1期分（22戸）平成29年7月 1日から入居開始
　第2期分（63戸）平成30年3月25日から入居開始

◆請戸住宅団地　26戸
　令和2年10月1日から入居開始

町営住宅



震災前に整備した一般の公営住宅を修繕

◆御殿南住宅　10戸
　平成31年3月25日から入居開始

福島再生賃貸住宅





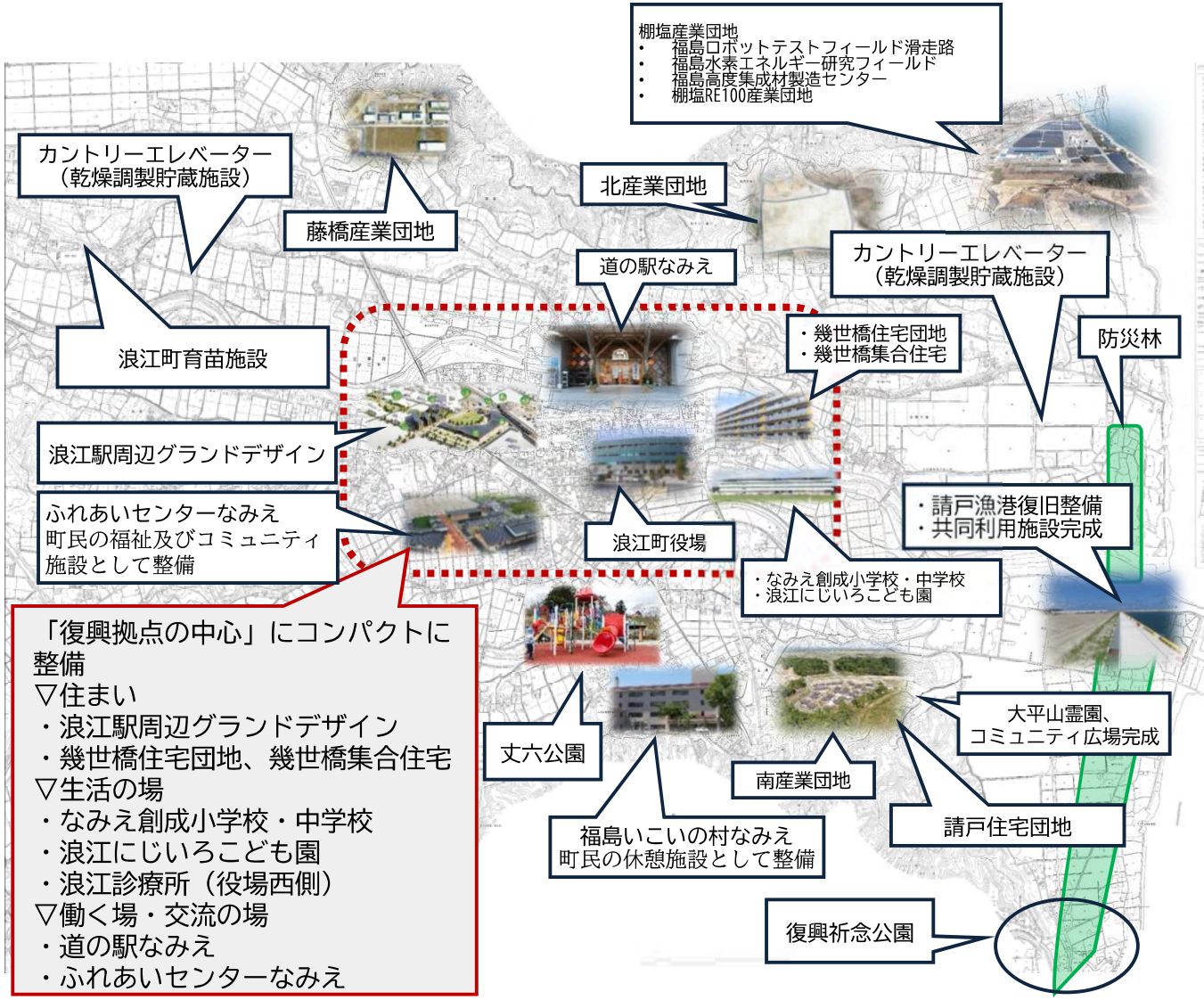
被災者・転入者向け公的賃貸住宅として整備（全90戸）

◆幾世橋集合住宅
　旧・雇用促進住宅 2棟 80戸　改修
　平成29年9月11日から入居開始

◆津島住宅団地　10戸
　令和5年4月1日から入居開始

復興まちづくりの考え方

まちづくりの核となるエリアを足掛かりに町全体を再生













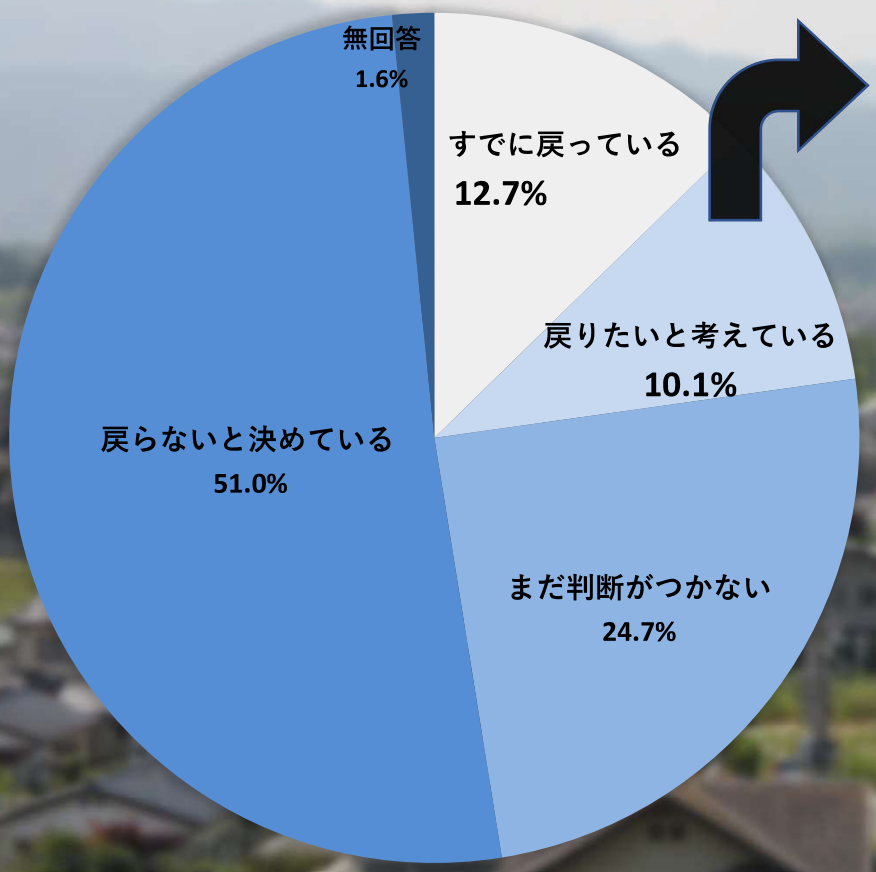




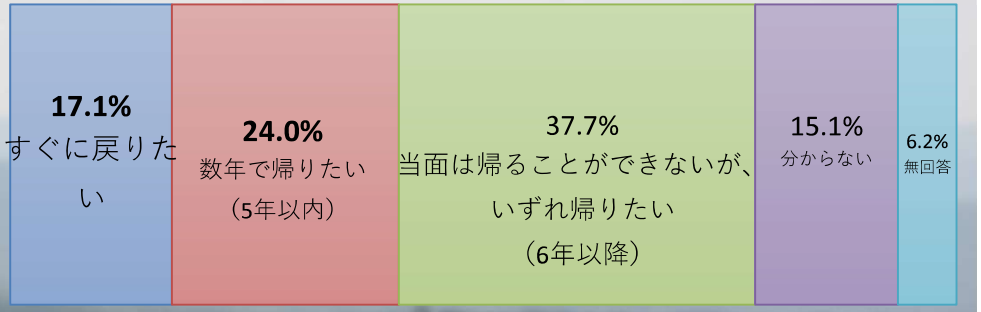


住民意向調査の結果（令和7年度）

帰還の意向



帰還の時期



調査の概要

- 調査対象　世帯の代表者　6,976世帯
- 調査時期　令和7年10月6日～10月24日
- 回収数　2,289世帯
- 回収率　41.4%（前年度44.5%）

認知度向上・地域の魅力づくり

◆ 浪江町民に愛されてきた「なみえ焼そば」

およそ50年前に誕生したご当地グルメの一つで、極太の麺と、うまみたっぷり濃厚ソース、もやしと豚肉のシンプルな具が特徴です。また、ご当地グルメで日本一に輝き、避難指示解除後は「東北五大やきそばサミット」と題して東北地方の有名な焼そばを集めたイベントを浪江町で開催しています。


なみえ焼そば

◆ ふるさとの味が浪江町を伝える

かつて海に一番近い酒蔵として、請戸漁港で水揚げされた魚に合う酒造りを代々行ってきた鈴木酒造店。2021年3月、道の駅なみえに併設された酒蔵で浪江町での酒造りを復活させました。

浪江町の酒は、いまだ避難を余儀なくされている町民と浪江町を繋ぐふるさとの味となっただけではなく、請戸漁港で水揚げされるヒラメやカレイなど「請戸もの」に新たに触れる人にもふるさとの味を広めています。


代表銘柄「磐城壽」



認知度向上・地域の魅力づくり

◆ 「NAMIE WATER」モンドセレクションで３年連続金賞

町内で飲まれている水道水をペットボトルに詰めた「ＮＡＭＩＥ　ＷＡＴＥＲ」が国際的な品質評価コンテストのモンドセレクションで3年連続（2021・22・23）金賞を受賞しました。浪江町役場、道の駅なみえ、福島いこいの村、県内のイオン東北などで販売されています。



◆ 一輪を大輪に、「花のまち」を目指して

避難指示解除後、徐々に米や野菜が生産されるようになった浪江町でしたが、作物から放射性物質が検出されたこともあり、風評被害の少ない花卉の栽培が始まりました。

ノウハウもないゼロから始まったトルコギキョウの栽培は、東京オリンピックのメダリストたちとともに輝くビクトリーブーケに選ばれ、花卉市場で高い評価を得るようになりました。


トルコギキョウ

認知度向上・地域の魅力づくり

◆「住みたい田舎ベストランキング」で2年連続1位獲得

※人口5千人未満のまち　総合部門

宝島社が発行する「田舎暮らしの本」（2025年2月号）で発表された「2025年版　住みたい田舎ベストランキング」において「人口5千人未満の町」の総合部門、において1位を獲得しました。



◆福島県市町村広報コンクール（映像の部）で最高賞の特選受賞

【第69回】

浪江町でしか体験できない一泊二日の女子二人旅をテーマに、震災から力強く復興している様子や、地元を愛している人達の笑顔をとらえた内容で、映像の美しさや、風景、グルメ、体験など浪江町ならではの映像が高く評価されました。



「大切な人と訪れたい、福島県浪江町の旅」動画の一コマ

【第71回】

請戸弁を話す“漁師母ちゃん”が、請戸の海産物の調理方法と震災前の請戸の生活・漁の思い出を語る動画シリーズで、漁師母ちゃんの請戸への深い愛が感じられ、「料理には、その人の地域での暮らしが刻み込まれている」と思わせる点が高く評価されました。



「請戸漁師　かあちゃんのカンタン浜料理」シリーズの「かすべ(エイ)料理編」

復興を実現し飛躍するふるさとの姿





つしま肉まつり


請戸ものまつり

みんなの想いを一つに、
復興を実現するまち

ひとの縁を大切に、関わる
人が増え、調和するまち

先進的な取組で、夢と希望の未来を創るまち

浪江町のいまを知る

つながろうなみえ
（Facebook）

なみえチャンネル
（YouTube）

うけどん公式X
（旧Twitter）

うけどん【公式】
（Instagram）

@namie.town【公式】
（LINE）